

令和 6 年度

第 2 次さっぽろ都市農業ビジョン推進懇話会

会 議 録

日 時：令和 7 年（2025 年）2 月 14 日（金）
会 場：札幌市農業支援センター 2 階会議室

札幌市経済観光局農政部

開 催 概 要

●日時 令和7年（2025年）2月14日（金）14時～16時

●場所 札幌市農業支援センター2階会議室

●次第

1. 開 会

2. 議 事

（1）次期ビジョン策定に係る想定スケジュール及び検討委員会の設置について

・質疑・意見交換

（2）令和6年度の進捗状況について

・基本理念及び基本的な方向

・アクションプラン

・質疑・意見交換

（3）情報提供

・次期ビジョン策定に向けた調査状況等について

・札幌市農政部の機構改革について

・JAさっぽろ青年部・女性部の取組状況について

・質疑・意見交換

（4）その他

・検討委員会の設置に係る手続き等について

3. 閉 会

〔配布資料〕

資料1 第2次さっぽろ都市農業ビジョン推進懇話会委員名簿（第4期）

資料2 第2次さっぽろ都市農業ビジョン推進懇話会設置要綱

資料3 第3次さっぽろ都市農業ビジョン策定に係る想定スケジュール

資料4 令和6年度 第2次さっぽろ都市農業ビジョン進捗状況調書（①～③）

●出席者

委 員：宮入 隆ほか7名（配布資料1参照）

札幌市：石橋 英二 （経済観光局農政部長）

高本 俊 （経済観光局農政部農政課長）

佐々木 久美（経済観光局農政部農業委員会担当課長）

木村 伸子 （経済観光局農政部農業支援センター所長）

議 事 録

1. 開 会

●札幌市 ただいまから、令和6年度第2次さっぽろ都市農業ビジョン推進懇話会を開催いたします。

本日の司会・進行を勤めさせていただきます。よろしくお願いいたします。

それでは、まずはじめに主催者を代表して農政部長よりご挨拶申し上げます。

●札幌市 令和6年度第2次さっぽろ都市農業ビジョン推進懇話会開催にあたりまして、一言ご挨拶申し上げます。本日はお忙しいところお集まりいただきまして、また、足元が悪い中有難うございます。

また日頃より、それぞれのお立場で札幌市の農業行政にご尽力いただきまして、この場をお借りしまして改めて御礼申し上げます。

札幌市の農業の現状でございますが、皆様ご存じのとおり、農家戸数の減少ですとか農家の高齢化、農地面積の減少等、そういう状況が依然と進んでいる状況です。また現在、2025年の農林業センサスが昨年の10月から進められている訳でございます。その結果は、おそらく今年の年末くらいには速報値ということで出るかと思えますけれども、こういった減少傾向というのは、おそらく更に進んでいるっていうのは危惧されるところでございます。

昨年6月に食料・農業・農村基本法が改正されまして、近年の世界的な気候変動ですとか国際情勢の不安定化等を受けまして、基本理念として「食料の安定供給の確保」というところが「食料安全保障の確保」というものに見直されております。札幌市におきましてもそういった食料、農産物に対する危機感が高まっている状況でございます。

札幌市といたしましても、安定した農業生産を持続するためにも新規就農者の育成ですとか他産業からの農業参入、そういった担い手の育成・確保というところと、既存の農家さんに対する支援の強化というものに取組んでいかなければならないと考えているところでございます。

現在の都市農業ビジョンにつきましては、令和3年度から後期の5年間でスタートしておりまして、残すところあと一年となっているところです。中間評価を実施いたしまして、浮き彫りになった課題と向き合いまして、次期ビジョンの策定を見据えながら引き続き事業に取り組んで参りたいと考えております。

今日の前半につきましては、次期ビジョンの策定のスケジュールの共有ですとか、令和6年度の事業の成果による達成状況等といったものについてご報告いたします。また後半につきましては、次期ビジョン策定に向けて実施している調査の進捗状況ですとか、札幌市農政部の機構改革等について情報提供させていただきたいと考えております。

皆様には、それぞれのお立場からご忌憚のないご意見を頂戴できればと思っております

ので、どうぞよろしくお願いいたします。

●札幌市 それでは、本日はこの次第に沿って議事を進めさせていただきたいと思います。お手元の資料なんですけれども、本日お手元にあるのは議事の1と2です。「令和6年度の進捗状況について」までの資料となっております。3の情報提供以降の資料につきましては、休憩を挟みますので、その時にお配りしたいと考えております。宜しくよろしくお願いいたします。

でははじめに、まず出席者のご紹介をさせていただきます。

資料1をご覧ください。懇話会委員名簿をご覧くださいと思います。札幌市農業協同組合女性部長の菅原委員から欠席のご連絡をいただいております、本日は8名の方にご参加していただいております。

今年度、委員のうち3名の方が交代されておりますので、簡単ではございますが、名簿順に委員をご紹介します。

①北海学園大学経済学部地域経済学科教授の宮入委員です。

②続きまして、札幌保健医療大学保健医療学部栄養学科教授の百々瀬委員です。

③続きまして、新任の札幌市農業委員会会長の生野委員です。

④続きまして、札幌市農業協同組合代表理事組合長の軽部委員です。

⑤続きまして、新任となりますサツラク農業協同組合代表理事組合長の山本委員です。

⑥札幌市農業協同組合青年部長の大畑委員です。

⑦札幌市農業協同組合女性部長の菅原委員は、先ほど申し上げましたとおり欠席となっております。

⑧続きまして、新任であります公益社団法人札幌消費者協会理事の石川委員です。

⑨最後に、一般社団法人日本野菜ソムリエ協会認定の野菜ソムリエ上級プロの吉川（きっかわ）委員です。

本日は、どうぞよろしくお願いいたします。

それでは、会を始める前に皆様にご覧いただきありがとうございます。

本日の議事につきましては、会議録を札幌市役所公式ホームページで公開する都合上、録音すること、内部の報告用に写真を撮らせていただきます。これにつきましてご了承ください。

なお、会議録は発言された方のお名前は公表いたしませんのでよろしくお願いいたします。

続きまして、「次第」をご覧ください。

本日の進め方ですが、はじめに2番「議事の(1)」で、事務局から次期ビジョン策定に係るスケジュールや検討委員会の設置についてについて説明させていただいた後、質疑・意見交換を行い、引き続き「議事の(2)」令和6年度の進捗状況について説明させていただき、質疑・意見交換を行います。

その後、10分程度の休憩をとりまして、後半は「議事の(3)」で情報提供をさせていた

だき、質疑・意見交換を行います。

よろしくお願いいたします。

2. 議 事

●札幌市 それでは早速ですが、議事の(1)「次期ビジョン策定に係るスケジュール及び検討委員会の設置」について説明いたします。

現在の都市農業ビジョンは、平成28年度からの10年間の計画で、令和2年度に前期の5年間の終了し、皆様にご意見をいただきまして、令和3年11月に中間評価報告書としてとりまとめたところです。

それでは、資料3の1ページ目「【議題1】第3次さっぽろ都市農業ビジョンの策定」をご覧ください。

令和3年度から後期の取組がスタートしておりますが、次のビジョンである第3次ビジョン（仮称：さっぽろ都市農業振興基本計画）策定の想定スケジュールについてご説明いたします。

現ビジョンは来年度、令和7年度までの計画でして、以前の予定では「食料・農業・農村基本計画」の見直し結果や、2025年農林業センサスの結果を踏まえビジョンへ反映させ、第3次ビジョンでは令和9年度からの計画とする方向」で考えておりましたが、昨年度の懇話会において「農業政策の大幅な転換は考えられない」ことや、「農林業センサスの結果については、農地面積や農業者の減少等の傾向は前回調査時の令和2年と大きく変わらないことが推察される」といったことから、1年前倒ししまして令和8年度からの計画とするとお伝えしたところです。

なお、第3次ビジョンは、都市農業振興基本計画に基づく地方計画として策定し、これまで農業施策の対象としていなかった市街化区域の農地も含めたさっぽろの農業を振興する計画といたしたいと考えております。

今年度は、市街地の農地の調査、農地所有者や耕作者等への意向調査を実施したほか、市民等による利用を想定した農地の活用方法等検討中です。来年度の令和7年度につきましては、市民意識調査や農業者への聞き取り、検討会を数回開催して計画案を作成し、再来年度の令和8年度には関係機関との調整、パブリックコメントの実施や市の関係部局との調整など、必要な手続きを経て令和8年度の年度末までに策定する予定となっております。

先ほど申し上げた中で、農業者の聞き取りにつきましては、どのような方法で行うかにつきまして、これから検討していきたいと考えておりますが、例えば「青年部の会合の際に我々がお邪魔して、お時間をいただき意見交換を行う」ですとか、そういった進め方について今後、色々考えていきたいと思っておりますので、関係の方々には改めてご相談させていただければというふうに思っております。

また、検討委員会ですが、メンバーは本日ご出席の皆様を基本に構成し、現ビジョン策

定時と同様に令和7年度中に懇談会を3回程度開催しまして、次期ビジョン策定に向けてのご意見をいただきたいと考えております。昨年度までは、皆様の方に公募によって市民の方から2名程度追加して、検討というのを考えておりましたが、今月中に市民3,000名を対象としたアンケート調査を実施予定となっております、その結果をもって市民の意見として計画策定に反映するということが可能であると考えております。なお、他にご意見をいただいた方が良いというようなご提案につきましても、ご助言いただければと思います。

また、第3ビジョンの策定後は、現ビジョンと同様に懇話会を設置し、進捗管理していくことになりますが、新たな事業制度の検討や実績を報告するためには、令和10年度を第1期とするのが望ましいのではないかと考えております。次期ビジョン策定については以上となっております。

それでは、「質疑・意見交換」に移ります。

ここまで説明した、策定の考え及び検討委員会の設置に関しまして、忌憚のないご意見をいただければと思います。どうぞよろしくお願いいたします。

昨年度も、これについては一旦、説明させていただいたところではあります。

●委員 先ほど、「農業者への聞き取り」と仰っていたんですけれども、普通に聞き取りすると忌憚のない意見は出ないと思います。「名前は出ない」とか「顔は分からないようにする」とかしないと。そうじゃないと、本当の気持ちや言葉は出ないと思います。

私も色々な仕事をしていますが、無記名のアンケートだと回答内容が信用できないと思いますね。今後の計画に繋がることなので、そこは本当に慎重に色々やり方を考えた方が良いでしょう。

●札幌市 後ほど、報告事項でお話をさせていただくんですけれども、無記名の農業者に対するアンケート調査というのは、この前、実施したところではあるんです。一旦、そういう資料はあります。あとは、それ以上のもうちょっと深く突っ込んだところのご意見をいただきたいなというふうに思っただけなんですけれども、どうでしょう。例えば、青年部さんの会合の場所にお邪魔した場合、皆さんから忌憚のないご意見はいただけそうですか？

●委員 できると思いますし、僕も吉川さんと同じ気持ちで、将来のことを考えるには「将来を考える会」という名目がないと、そういう意見は出てこないんですよ。ただ農家だけで集まっても、普段の不満とかしか出ない。そのためにどうしたら良いかという話にはなるけれど、未来のために何か意見を出すというのは、そういうテーマについて考え合わない、僕は出てこないと思うので。そのために札幌市が繋いでくれば、色々な機会を持ってそういうふうに皆が向かっていけると思うんですけれども。次期ビジョンの中で札幌の

農業の魅力を上げるには、札幌野菜・札幌の物をPRしていかなくちゃいけないと思うんですけど、札幌市としてはその札幌の物に対してどういうアプローチでいくのかなというのが聞きたいところ。

●札幌市 そこも課題というふうに捉えていまして、我々の考えとしては、やはり「札幌で採れた野菜を札幌で消費してもらいたい」という考えは大前提というふうに考えていますので。ただ我々、そもそも「札幌で採れた野菜がどういう経路で今どこで出回っているんだろう」というところを、実は恥ずかしながらよく分かっていないところもありますので、そういったところも色々とお助言をいただきながら、「そういうことなら、こういう手があるかな」という方策に繋いでいければなと思っております。

●委員 札幌って世界で有数の大都市だと思うので、札幌でしかできないことって、すごくたくさんあると思うんですよ。札幌が声を上げてくれればみんな振り向くし、名前の知名度もあるし、そういう意味でさっきも課長と話をさせてもらったんですけど、この会議も「話し合っただうだったね」というよりかは、「次こういうことをしよう」というふうに繋がるような会議にしないと、毎年皆さんが集まっている価値も勿体ないと思ってしまうので、そういうふうに繋げるような会議が増えれば良いかなと思います。

●委員 昨年、この会議での「イベントがあったら連絡が欲しい」という意見に対し、今年度は実際に連絡いただいて、私も「とれのさとのイベント」に行くことができました。実際に懇話会での意見が反映されたことは良かったと思います。ですので、大畑委員が仰るとおり「こうしましょう」と決めたら、そう動いていくのは本当に大事だなと思います。

合わせて、農地の状況をみますと、農業生産自体の縮小がもうギリギリのように感じます。そもそも農業生産自体が無くなったら、「何か消費者にアピールしよう」と言っても何も無い訳ですから意味がありません。多面的機能も商品生産としての農業があつてこそです。担い手となる生産者に対する支援をどうやっていくかという、札幌市農業に関する「目玉」となる対策が必要だと思います。それによって、これからの数年でどれだけ農地を維持できたのかもチェックしないといけないですね。

●委員 周りにも新規の農家さんがいるんですけど、「周りに知り合いもないし相談できる人がいない」と言って困っている人もいますし、そういうところも市が協力・寄り添ってあげないと続かないと思います。

●札幌市 そういう声をいかに拾うかというのも課題になりそうですね。

●委員 たぶん意見を集める場をつくれれば、多種多様な忌憚ない意見はいっぱい出てくると思います。ワークショップ形式の場をつくるのであれば、ファシリテーションが大事で

す。テーマを絞って、意見を言ってもらった方が、まとめやすいですし、参加者もお話しやすいと思います。そういう場に、例えば懇話会の委員の皆さんがファシリテーターみたいなかたちで関わっていくというのもアリかと思います。

●札幌市 そうですね。進め方は要注意ということ。

●札幌市 我々、札幌市の農政部として、札幌の農業をどうしていくかというところがしっかりしていないと、皆さんとお話できないというのは勿論ありますので。やはり、「札幌って農業の規模が小さいよね」と言われるんですけど、ただ、昨年も宮入先生からお話があったように、「札幌は北海道の農業の発祥の地」ということで、それがずうっと今まで続いてきている。それであれば、札幌でできることはもっとあるだろうと。なかなか、札幌産と江別産の農産物は見た目に違いは無いんですけど、「違いはあるんだよ」というのは、やはり我々でないと伝えていけないしPRできない。やはりそういった立場で、皆さんに色んな意見を伺っていかないと、皆さんからも意見を出していただけないかなと思いますので、そのところはまず我々の方でしっかりと内部で固めてからですね。

やはり今お話をお聞きしていますと、我々の方で「こういったテーマで、こういった目的で色々お話を伺いたい、ご意見を伺いたい」ということが望ましいようなので、そういった部分で青年部さん、農協さんにもご協力をいただいて、そういう会を設定して、おそらく1回きりではないかと思うので、実質1年間というところになりますが、ご協力いただいてしっかり準備して、しっかり整えていきたいと思っています。

●委員 この計画も見させてもらおうと、皆さんの困っていることに対するアプローチはすごく良いと思うんですけど、僕としては札幌の大きなイベントを巻き込んだことをやっていった方が将来、みんなが農業をやりたくなるというか興味を持つと思うんですよね。そこをやはり札幌市さんに協力してもらわないと、僕らも踏み込めない部分が多いので、そういうところをもっとビジョンに取り込んでもらいたいなと思います。

●札幌市 我々でやるべきこととか、JAさんの方でやっていただきたいこと、色々そういうのも出てくると思うんですけど、そこを協力してやっていけるようにと思います。

●委員 宜しいでしょうか。今のことに関連するんですけども、札幌市の方でテーマをしっかり伝えて話し合うということには賛成なんですけれども、そのときに大切なこととして、例えば「無記名でやったアンケートの結果で、こういうようなことが出ていた」というデータを示したりすることも大事でしょうし、あと、「青年部の集まりに出かけます」というだけではなくて、「どんな人に集まってほしいか」とか、あとは、集まった中で例えば年齢構成は重要で、グループワークをするときに「若手なら若手ばかり」、逆に「ベテランならベテランばかり」ではなく、グループワークのメンバー構成みたいなのもすご

く大事だと思うんですよね。意見が言いやすい雰囲気とか、そういったこともやはり考えて「こういうメンバーを今回送ってほしい、こういうことを話し合っただけいいから」というのは、人選も含め誰でも良い訳では絶対にならないと思うので、意見を言いやすい準備をしなければいけないかなというふうに思いましたので、一緒にご検討いただければ。

●札幌市 そうですね。そういった部分も事前に協議させていただきながら、「今回、こういうメンバーでいきましょう」とか、そういったことも考えながら。

●委員 札幌市のイベント事業というのは、どこの部署になるんですか？ 観光とかですか？

●札幌市 それぞれであるので、観光の部分もありますし、健康の関係であればウェルネス推進部というところでやっていますし、それぞれの部局でイベントを持っています。

●札幌市 そうですね。我々も農業に関係しそうな、そういうイベント等には常にアンテナを張って「何か情報を仕入れたいな」と思っていますので、そういった中で「これなら農政も参加できそうだな」ですとか、そういうのがあれば随時、情報提供させていただきたいと思います。

●委員 正直、色んな団体さんは個別にPRを頑張っていると思うんですけど、やはり、そこと市がマッチしないと僕は駄目かなと思っていて。それから一緒にやりたいです。

●札幌市 仰るとおりだと思います。なかなか農政単独で仕掛けていくのは難しいので、他の部局でやっているようなものと一緒に仕掛けていくとか、何かそういうのは必要かなと。

●札幌市 シーズン中には、市内あちこちでマルシェをやっているんですけども、そういった情報を全部把握しているかという我々もほとんど把握してない部分がかなりあって、本当はそういうのを全部集めて札幌農業のPR、農産物のPRに繋がる色んな情報を集めて集約して、お知らせする。そういったことがやはり大きなPR、取組になるのかなと、そういった部分に力を入れていければなと思っています。

●委員 「消費者は、ここを見れば札幌市のイベントのことが全部分かる」というような札幌市のホームページの整備をするとか、全部は無理でもきっとそういう整備が大事だと思うので、生産者が情報を書き込む場所というか「ここに開催場所の情報を提供してください」というページを用意するだけでも違うのかなと思うんですよね。

●札幌市 マルシェとか直売所も、シーズン中は軒先などで販売されている方もたくさんいるので、そういったことはかなり知られていないんですよね。丘珠で普通に玉ねぎが買えるのも一部の人しか知らないとか、そういうのは札幌市の農政部のホームページでそういったプラットフォームを用意して、情報は皆さんに更新してもらうような、そういったものを作らなければいけない。

●委員 札幌市は大きい街だから仕方ないのかもしれないけれど、市内の端から端まで距離があると思うんですよね。本当の長い知り合いだったら、「こういうイベントがあるから来いよ」と言って来たりできるんですけど、なかなか役所で働いてる中で「農業イベントに出てこいよ」と言えない、ちょっと難しいところもあるんでしょうけれど、やはりそういうのを乗り越えていかないと、良いイベントはできないような気がします。

●札幌市 そういう普及啓発だとかPRのあり方というのも、次期ビジョンの中で重要なテーマになっていくと思いますので、そういった部分の来年度検討においても、皆さんのご意見を是非いただきながらやっていきたいと思っています。

そうしたらですね、また色々ご意見などは意見交換する時間がありますので、次のテーマとさせていただきます。

続きまして、次第の2番、議事の2ですね。令和6年度の進捗状況について説明いたします。資料4になりますね。A3横のものが2枚。

まず、これの基本理念の目標となります「札幌産農産物を購入している市民の割合」。これは左側の1番「基本理念」と書いているところになりますが、この実績値は毎年「市民意識調査」というのをやっています、その中でこの項目については5年に1回、調査項目に入れて把握しております。前は令和2年度に行っていました、次回調査は令和7年度の予定となっております。なお、昨年度、設問に余裕があったので参考までに入れさせていただいたところ、62.7%という結果でした。ちなみに、令和2年度は67.4%でしたので、約5%落ちという状況に。目標は80%なんですけれど、だんだん下がっていったという結果になっております。これらの要因としては、様々な理由が考えられるところではあります、その一つとして令和2年度の調査時において「市内に農地があり農家がいることを知っていますか」という質問に対して、「知っています」と答えた割合が約81%当時がありました。それに対して、昨年度同様の質問をしたところ、約66%と低下しております。そもそも、「札幌市内で農作物が生産されている」という認識が低下しているという様なことも、要因の一つとして考えられるのではないかと考えております。

続きまして、ビジョンの3つの柱である「基本的な方向」の目標の進捗状況についてです。

基本的な方向Ⅰの目標「意欲ある多様な担い手の農地利用面積割合」は、「経営耕地面積」のうち、「意欲ある多様な担い手へ集積されている農地面積」が占める割合を示したものです。分子の「意欲ある多様な担い手へ集積されている農地の面積」は、年度が変わ

ってからの集計となるため、現時点においては令和５年度の実績と同等というふうに見込んでおります。

令和５年度までの傾向を見ると、だんだん増加傾向にあり、引き続き、「意欲ある多様な担い手へ集積されている農地面積」の目標達成に向け、取り組んでまいりたいと考えております。

続きまして、基本的な方向Ⅱの「地産地消の取組件数」は、さっぽろとれたてっこのロゴマークを活用する取組数を計上しており、札幌産農産物を市民に広く知ってもらうため、とれたてっこマークを掲げる箇所を増やす取組を行っております。

令和６年度は、清田区の直売所を中心に令和５年度から３６件増加しております、目標の年間２０件を上回る達成状況となっております。これにつきまして、今後も継続して取り組んでいきたいと考えております。

それと、この項目について、農業支援センターの方から補足説明があるということです。

●札幌市 とれたてっこの制度につきましては、札幌市農業振興協議会の方で運用されている事業になりまして、ＪＡさっぽろ様やサツラク様、石狩農業改良普及センター様、札幌消費者協会様と札幌市が構成員となり、協議会の方で事業をしております。今回のこの清田区の直売所につきましては、ホクレンショップさんの直売コーナーに「とれたてっこ」の幟旗を置かせていただいているという形になっております。それで、この幟旗ですとか竿ですとか、ミニ幟というのものもあるんですけれども、そのあたりも協議会で購入しております。

そして、それと協議会の方から札幌市の学校給食栄養士会さんが主催する学校給食展、この前も地下歩行空間でやらせていただいたんですけれども、そちらに一部補助をさせていただいているのと、その中で「とれたてっこ」のパネルを提示させていただいております。

また、消費者協会様と共同で「さっぽろとれたてっこ」の野菜料理講習会というのを開催しております。以上でございます。

●札幌市 はい。具体的な取組みの説明をいたしました。

それでは資料の方に戻りまして、基本的な方向Ⅲです。「農業に関心のある市民の割合」についてですが、こちらも基本理念と同じく昨年度、参考に実施したところ、４５．８％という低い状況にありました。ちなみに、令和２年の調査では、５１．１％ということで約５％落ちとなっております。これにつきましては、引き続き目標の達成に向けて各種取組を推進してまいりたいと考えております。

続きまして、資料の右側「進捗状況調書②」をご覧ください。「後期アクションプランの進捗状況」について、ここでご説明いたします。

まず基本的な方向Ⅰの（１）「多様な農業の担い手の育成・確保」では、２つの達成目

標を設けております。

まず目標 1「就農 6 年目における定着率」は、令和 6 年度においては 2 つの経営体が 6 年目を迎えましたが、全て営農を継続しており、100%の達成となっております。

続きまして目標 2「他産業から農業に参入した法人数」は、目標と同様の 2 法人が参入し、目標を達成しております。

次にⅠの(2)「農地の保全と活用」では、これも同じく 2 つの達成目標を設けております。

まず目標 1「意欲ある多様な担い手の農地利用面積」は、例年 2 月下旬に実施される国の調査により実績値が算出されるため現在のところまだ未確定ではありますが、大きくは変わらない見込みであることから、令和 5 年度の実績値を入れております。

続きまして目標 2「認定市民農園の開設数」は、令和 6 年度については残念ながら申出により 2 か所が廃止されております。開設相談というのは数件ありますが、認定の手続きには至っていない状況です。コロナ禍を契機に屋外の活動にニーズ自体は高まっていることから、市民のニーズに沿った農園が整備されるよう、制度の運用について検討するとともに開設者の相談に対応していきたいと考えております。

次に、Ⅱの(1)「農業経営の安定強化」の目標 1「農産物の安全・安心向上のための土壌診断実施数」は令和 5 年度から減少しておりまして、約 100 件の見込みとなっております。減少した要因といたしましては、例年よりも積雪が 20 日ほど早かったため、診断を諦めた農業者が多数いるというふうに考えられます。今後も、土壌分析により作物別に適切な施肥設計が行われるよう、適切に診断を実施していきます。

続きまして目標 2「未利用都市廃棄物の農業利用に取り組む農業者数」については 28 名と、令和 5 年度から若干減少しており、目標である 50 人を下回っております。定期的に必要なものではないため、年によって人数の増減はあるものの、目標を下回っていることから、例えば異物の混入防止であるとか質の向上等、取組の改善についても検討してまいりたいと考えております。

続きましてⅡの(2)「地区ごとの農業の個性を生かした多様な取組の推進」の目標 1「地域資源を活用し、農業者が連携して取り組むイベント等の回数」は、新たに開催されたものを含め 27 回と、目標の 10 回を上回った達成率となっております。

続きまして目標 2「農業交流関連施設の開設数」についてですが、昨年度に相談を受け今年度認定・開設した施設が 1 か所ございます。今後も、制度の P R や相談対応により 6 次産業化に取り組む農業者を支援していきます。

最後に、「市民の農業に対する理解促進」では、3 つの目標を設定しております。

まず 1 つ目。目標 1「市民農業体験参加者数」は、収穫体験の参加者の増加や、魅力的な体験講座の企画・実施等により、8.2 万人に増加しております。コロナ禍を契機に屋外活動や「食と農」に関心が高まり、さとらんどにおける市民農業体験参加者数は増加していることから、引き続き参加者を増やし「市民の農への理解」を促進していきます。

目標 2「さとらんどの入園者数」は、年度末の見込みで 65 万人となっております。昨

年度は木製アスレチック遊具広場の開設により大幅に増加し、今年度は週末の天候不順等により減少したものの、市有施設全体では入込数は上位に位置していることから（ちなみに4番目くらいですね。）引き続き、利用者数の増加に努めてまいります。

目標3「さとらんどを利用した人の満足度」は92.3%と、昨年度同様に目標の90%を達成していることから、引き続き目標を達成できるよう、運営管理に努めてまいります。

以上が、目標の達成状況になります。

次に、資料を一枚めくりまして裏面ですね。2ページになります。「進捗状況調書③」をご覧ください。他部局における「農」に関連する取組を一覧にまとめております。農に関連する取組は「食育」や「環境」、「鳥獣被害防止対策」、「流通」など多岐にわたります。アクションプランでは、関係する部局と連携して取り組むこととしておりまして、既に連携して取り組んでいるものもあれば、他部局が独自に取り組んでいるものもあり、中には今年度新規の取組みも見られます。

詳細につきましては説明いたしませんですが、連携できるものについてはさらに推進し、アクションプランの目標達成に向けて取り組んでまいります。

資料の説明は以上になります。

それでは、この部分につきまして質疑・意見交換に移ります。

ビジョンの進捗状況でありますとか事業報告に関する内容のほか、札幌市の農業に関して皆様が気にかけていることなど、忌憚のないご意見をいただければと思います。どうぞ、よろしくお願いいたします。

●委員 質問というか確認事項が2件あります。まず「さっぽろとれたてっこ」に関してなんですけれど、ネット上でこのキーワードで検索したときに札幌市のページに辿り着くんですが、そのときの見え方というのが幟を使いたい方のための申込書とロゴマークが載った1ページがヒットするんですけれど、そのページ以外に「とれたてっこ」のマークのことが書かれているページというのはあるのでしょうか？ と申しますのは、ロゴの意味で「青い文字が水を表している」などのロゴマークの謂れというのが検索では見当たらなかったんです。同じくJAさっぽろさんのホームページにもヒットするんですけれど、そこにはきちんとロゴマークの謂れが書かれていまして、そこからリンクを貼って市の農政部に飛ぶようになっているんです。飛んだ先がマークのことを詳しく書いておらず、「産地表示になりました」ということしか書かれてないんですけれど、その辺はどのような...

●札幌市 いま委員に言われたとおりでございます。マークの説明というのは、今のホームページではございません。

●委員 先ほど支援センターの方からお話が少しあったんですけれども、私ども消費者協会は札幌市からの委託事業というのも受けていまして毎年、札幌市農業振興協議会共催事業ということで「とれたてっこ」をメインにした講習会、料理教室なんですけれども、や

っているんです。去年は9月に小松菜の講座をやってまして、その前2年は札幌黄の講座だったんです。その講座というのは、メインは料理教室なんですけれども、一番最初に前座がありまして、そのときに必ず「とれたてっこ」のマークのお話から入るんですね。なので、伝えようとするときにそのマークだけを「とれたてっこ」と言われても、色々なキャラクター等もそうなんですけれども、「これはどういう謂れである」とか、そういうストーリーから伝えないと、消費者に届かないと思うんですよね。なので、その辺も早急に改善していただきたいなと思うことが一つです。

あと、「とれたてっこ」の販売に関してなんですけれども、直売所で幟を立てて販売するというのは良いんですけれども、必ずしも市民の皆さんが直売所に辿り着くかということではないと思うんです。「消費者の方から来てくださいよ」ではなく、「こちらから出向いて行く仕組みができないか」というふうに思っていて、例えば極端な話なんですけれども、移動販売車を用意して札幌一円に巡るですとか、あと市内10区に公共施設がありますから、例えば8月の野菜摂取強化月間のようなときに各区役所とか区民センターとか、それぞれの区の方がアクセスしやすいような所にこちらから出向いて行く仕組み、そういう仕組み作りができるといいのではないかなというふうに感じました。

これが「とれたてっこ」のことなんですけれども、あともう一つ、市民農園に関しても思っていることがありまして、札幌市のホームページから見ますと、市民農園の一覧が出てきて10区のうち中央区と豊平区以外は全部農園がある形になってはいるんですが、「利用にあたって」というところのただし書きを見ると、「前年度、農地を利用した方が優先で利用できますよ」という記載があるんです。ということは、例えば人気の農園があって、そこで「継続して何年も耕作をしたい」と思われた方がいた場合、「結局新しい方がそこに新たに入っていけるんだろうか？」というふうに思っていて。こちらでもJAさんのホームページを拝見しますと、「空き区画なし」と出てくるところがあるんですね。それが札幌市のホームページにも載ってまして、その『「空き区画なし」と載っているのは、ということなんだろう？』と思っていて。色々と市民農園の実態調査というのはされていると思うんですが、実態として、継続者がずうっと占めていたり、「新規の方が本当に入れる状態なんだろうか？」という思いがありまして、その辺のヒアリングというのはされているのでしょうか？

●札幌市 まず1つ目の「とれたてっこ」施策については、どうでしょうか？

●札幌市 ホームページの方は、なるべく早くストーリー（謂れ）を掲載したいと思います。今後についてなんですけれども、「とれたてっこ」制度自体、「このまま続けるべきかどうか」というところが昨年のこの会議の中でも出たりするような状況ですので、「とれたてっこ」制度をどうしていくかというのは、第3次の札幌市の農業ビジョン計画案の策定が来年でございまして、そういうところと併せて地産地消の取組目標というのをどういうところに持っていくのか、「とれたてっこ」のこのマークの掲示を今は目標にして

いますけれど、そういう形がいいのかどうなのかというところを含めて、札幌市の農業振興協議会の会員の皆様方と話し合いをしながら考えていかなきゃいけないかなというふう
に思っております。その中で、この「とれたてっこマークでいきましょう」ということになるのであれば、先ほど委員が仰っていましたように、移動販売車だとかそういうことも検討が必要。こちらからというところも考えていけるのかなと思います。

●委員 今の「とれたてっこ」のところで宜しいでしょうか？ 「36 件」というのは取組件数ということですが、実際関わっている農家さんは、どれくらいありますか？

●札幌市（事務局） 個別の農業者が 35 戸で、農事組合法人が 1 法人と聞いております。

●委員 この 36 件の「件」って意味が分からない。

●委員 「件」は戸数ということでしょうか？ 個別の農家さんが 36 戸？

●札幌市（事務局） 35 戸プラス法人が 1 法人です。

●委員 では、これは 36 件ではなくて担い手の数というか、令和 6 年度の 36 というのは、取り組んでいる経営体数？

●札幌市 経営体数です。

●委員 今、移動購買車のお話もありましたけれど、始まった当初、「とれたてっこ」の取り組みは、論文や学会報告などにも事例として取り上げられ、札幌市中央卸売市場も関わって、大きな枠組みで地産地消を実践していましたよね。いまは卸売市場など既存の流通も巻き込みながら、地場流通の流れをつくるとか、そういう取り組みではないのですね。

●札幌市 無いんですよ。

●委員 そうですよ。 「さっぽろとれたてっこ」制度のサイトの内容が以前と変わったように思います。

●札幌市 元々は土壌診断ですとか、農薬の履歴ですとか、そういった栽培履歴と合わせて、安全・安心な農産物ということで、当初は農産物での認証制度で。その後は農業者認証、その後そういったものが認証制度から「札幌産の農産物は全てとれたてっこ」ということで産地表示制度というふうに変化が来ておりまして、その産地表示制度に変わったというのは、やはり『同じ札幌の農産物ということであれば「とれたてっこ」に取

り組んでいる農業者と取組んでない農業者それぞれ同じ場でPRできない』という課題があったので、「産地表示制度ということで札幌産をすべて等しくPRできるようにしましょう」というような形に変えたんですけれども、やはり弱いというか我々の方にPR不足ももちろんあるのですが。やはりそこで先ほどの冒頭でも色々お話された、「札幌産のPRする農産物あつての札幌の農業」だというのがもちろんありますので、そこに改めて立ち返って、「とれたてっこ」という名称でいくのか、産地表示制度でいくのか。そういったものを含めて改めて検討いたします。昨年も同じお話をいただいている中で、1年間何も進んでいないというふうにご指摘を受けることは承知しています。

●委員 「とれたてっこ」自体が悪い訳ではなくて、悪くないけれどイメージ戦略としてホームページを見たときに、このマークを見て「美味しそうな野菜だな」と思うかどうかしかないということですよね？

●札幌市 そうですね。そこは全然PRされていないというか、知ってもらおう努力が足りないということかと思います。

●委員 農業者も、とれたてっこのスタートのことを知っている人と、今のことしか知らない人だと差があるから、よく分からないんじゃないですか？

●札幌市 皆さん、認識がバラバラかもしれないですね。

●委員 スタート時点は、「基準などの数値をクリアしないとロゴマークを付けちゃいけない」という取組みだったから、今でも「私達、マークを付けられないわ」と思っている人もいるかもしれないし。

●札幌市 そこは改めて、今回のビジョンの見直しに併せて整理していきたいと思います。

●委員 さきほどの農業者のヒアリングみたいなものも、そういうところで「あ、知らなかった」と言うかもしれないし。でも「知らない」って本音と言えるような環境でのヒアリングにしないと、「知らない」とは言えないので。

●札幌市 根本的にやり方を見直さなければいけないというふうに思っております。色々皆さんのご指導をいただきながらと思っております。当然、農協さん、生産者さんと一緒に進めていかなければいけない取組みですので、実際に作っている方が「こういうふうに売ってほしい」、「こういうふうに市に動いてほしい」ということを我々から聞きに行かなければいけないと思っていますので。その辺は、これからビジョンの見直しの中で進めていきたいと考えております。

●委員 農家さんが「マークを付けたい」と本当に思っていたら付けていくという流れになるし、それがないと言ったら、もう「とれたてっこ」を続けていかなくても良いかもしれない。私達がとやかく言う話でもないかもしれない。

●委員 直売所が人気の都市だと、「ここの直売所に出すには、このマークが付いていないと」みたいな決まりがあったら、札幌でも同様にみんな付けたいし。

●委員 道外の生産者のみなさんは、それなりのマークを付けていますよね。伝統野菜のマークとか。

●委員 資料4の左側の基本的な方向1のところにある数字の算出方法の部分で、担い手の農地利用集積状況調査が「2月下旬に実施される」と書いていて、右側の1(2)の農地の保全と活用には「例年3月に実施される」とあるので、どちらかに統一して修正して頂いた方がよいと思います。

合わせまして担い手の農地利用面積の割合が出ていますが、そもそも農地面積がどれくらいなのか、また、「多様な担い手」というのは、どういった農業者を含んでいるのか、算出のために使用されている基本的な数値は表示して欲しいと思います。札幌市は認定農業者が少ないのは承知しています。ですから広げて多様な担い手を対象としていくことに依存ありません。しかし、ぜひ認定農業者とそれ以外の担い手を含めた、多様な担い手の内訳は、ここに数値として欲しいと思いました。

●札幌市 この数字の根拠はあるんですけど．．．。

●委員 どこまでを多様な担い手と見ているのか、今後の札幌市農業の未来を考えていく上で大事だと思いますので是非ともよろしくお願いいたします。

●札幌市 この資料の※1で、意欲ある多様な担い手の種類は記載しておりますけれど、実際、何名いるかは分からないので、数字は後ほど調べてお知らせします。

●委員 例えば、意欲ある担い手の農地利用面積の1,147haというのは、多様な担い手に集積している部分なので、トータルの札幌市の農地面積としてみれば令和2年農林業センサスでは経営耕地面積が1,500ha弱くらいだから、全体の8割くらいですよ？

●札幌市 基本は令和2年の農林業センサスの経営耕地面積を使っておりますので、分母は変わらないんですけど、具体的な数字を記載しないと分からないですよ。

●委員 そうですね。やはり担い手の実数がどのくらいで、現状の農地をどう耕作するの

かという観点も必要です。今、北海道平均であれば1戸当たりの平均面積が30ha超えなので、農地面積が1,000haくらいだと、30戸の農家で良くなってしまいます。でも「都市農業としての札幌市農業はそういうことではない」というところを明確にしながら、個別経営の平均面積がどれくらいで、どういう方向にもっていくのかということ、ここでしっかりと検討しないといけないと考えています。札幌市農業が持続できるかどうかというのは、今が一番瀬戸際だと思います。

●札幌市 そうですね。現在、策定中の地域計画が令和7年度からになるんですけど、主要な担い手への集積率といった部分が補助要件にも関係してくるという情報もありますので、こういうところもしっかりやっていると、今まで貰えていた補助金が貰えなくなる等のリスクもあるものですから、今後、重要になってくるかもしれない。

●委員 北海道の各都市では、農業者に対する補助というかサポートシステムというのはあるんですかね。「札幌では無いけれど、こういうことをやっている」みたいな。

●札幌市 自治体独自ですと、私が聞いたのでは、例えば石狩市さんなんかは新規就農者さんに対して「住居に対しての補助」だとか、あと、お祝い金のような「定着して営農している人には」といった（補助）。

●委員 市内での新規就農でもあるのですか？ 市外からの移住の話ではなくて、市内の中でも農業をやりたいという人にも補助がある？

●札幌市 どうなのでしょうね。

●委員 新規就農者に対しての補助としては、域外からの新規参入者への補助が住宅なども含むので充実しているかもしれないですね。

●札幌市 そういう仕組みを聞いたことがあるんですよ。

●委員 農業って、厳しいと言われているのもそうなんですけれど、「資材が高くて野菜が安い」みたいなのがあって、やはり個々の努力だけではもう回らなくなっていると思うんですよ。そういう意味で、やはり市が応援してくれなければ駄目なんですよ。「他のところでできて、札幌でできない理由」というのは、どういうところにあるんですかね。

●札幌市 どうしても全産業から見ると、農業という部分が規模として小さいので、札幌市の予算をどこに手厚く充てるかとなると、どうしても優先順位的に農業という部分については、下の方になってしまう。我々も、できれば色々やりたいところではあるんですけど、残念ながらなかなか予算的に厳しかったりとか、...

●委員 僕も、これは仕方ないものだと思うんですけど、こういうのは意識から変えていかないと、何十年後かは本当に札幌の農業が無くなってしまうレベルだから。

●委員 北海道内の農村部では、農業が基幹産業ということもあって、資材高騰に対しては、町と農協が資金を出して、高騰対策の補填金を全ての農家さんに行き渡るようにするというのはよく行われていることだと思います。仰るとおり、他方で札幌は産業としての農業の位置付けが小さく、農家さんも少ないことも確かですが、資材高騰の影響は同じように受けています。農産物価格が高くなって消費者も大変だとは思いますが、生産者はそれ以上に大変です。都市農業を守る札幌市の担い手だけ、このまま放っておいて離農していくというのは、あまりにも忍びないかなという気もします。是非、ご検討よろしくお願いします。

●委員 それに関連するかもしれないんですけど、「就農6年目における定着率」や「他産業から農業に参入した法人数」は新規の数字しか教えてもらえないということなんですか？ 辞めていく人の数字は、私達、会議で聞いたことがないと思うんですね。実は私、秋に自分のマルシェで「ふれあい果樹園のSさん」のところに仕入れに行くんですよ。去年、Sさんから聞いたのは「もうこの1～2年でリング農家はウチだけになるよ」と言ったんですよ。「何で？」と聞いたら、「鳥獣被害が酷くて、後継者がいないとやる意味がない。ウチは娘がいるからね。あと、周りの人がボランティアも色々入ってくれている歴史があるので、まだまだやれるし、やろうと思うけれど、ウチだけになると思うよ」と言ったんですよ。やめて何を作るのかなと聞いたら、「多分ね、ワインブドウになるね」と言っていました。ワインブドウは多分流行っているというのもあると思うんですけど、雪の下に入れるから、雪のあるときの鳥獣被害は少ないのだと思います。「リングの場合は雪の無いときと雪が積もってからの鳥獣対策を2段階しないとならない」と言っていました。雪が積もったら、その上をピョンピョン跳ねて行けちゃうので、樹の皮を食べられたりすると言っていましたから。その対策を2～3回することを自分達でお金でやるのは難しいと。「では、札幌市は何かしてくれているんですか？」と聞いたら、「いやあ．．．。」という感じだったので、野菜農家さんもありますが、やはり同じく、果樹の農家さんにもそういう補助も必要だと思います。果樹は大きくなるまで時間かかるし、とても大変だと思うので。この間、聞いて本当にびっくりしました。だから、減っている戸数の数字がどうなのかももう少し分かればと思いました。

●札幌市 今、ワインブドウと言われたところは、とある農家さんがワインを作る方に売られて、その方が新しく作るということかなと思っています。

●委員 ある意味そういう新規の農家にも、道外から来る人も出てくる可能性もあるので、もう少し立体的に色々と考えた方が良いと思います。移住対策にも関係するのかもしれない

いですけど、そういう見方も必要だなと思いましたね。

2008年に1年間、果樹の取材をしていたんです。その頃から札幌市の果樹の農家さん達は「後継者いないんだ。ウチは」と言う方が多くて驚いていましたが、何とかやっているなどと思って見ていましたけれど。もう年齢が上がってきているので、辞めるという話になってきているのだと思います。

●札幌市 鳥獣被害、特に南区の冬場の果樹被害について色々とお話をいただいている、国の補助事業で金網柵ですとかそういった材料そのものは国の方で。当然、自力で施工すれば、個人でできるという物も先ほどお話しました農業振興協議会の方が受け皿になって、瀬戸さんの方はまだやられてはいないんですけども、砥山の農家の方も今年2m位のフェンス柵を付けて、鹿が飛び越えて来ないような取り組みというのは始めていまして。鹿の捕獲に関しても、猟友会さんが協力してハンターさんが捕獲したエゾシカを解体して、一時的に集積して最終的に清掃工場で焼却するという、そういった仕組みが今年整いましたので、鳥獣被害は何とか減らせていければなというふうに思っています。

●委員 ただ、農家さん自体は減少しているという．．．。

●札幌市 なので、その離農された農家さんの果樹がそのまま残っていて、クマだとかの被害を受けている状況です。

●委員 新規でやりたい人とのマッチングに繋がっていければ良いなと思います。

●委員 現実に宅地等への転用もたくさんあるから、今まで農地が減ってきたというのはありますからね。離農地を他の担い手にどう集積していくのかも大事ですよ。

●委員 一昨年くらいに、新規でさくらんぼ栽培で入った若い人がいますよね？ その後の検証はしていないかな？ 先程のSさんの家から割と近いはず。

●札幌市 就農6年目の定着の果樹栽培のこの方が、Sさんの隣の人だそうです。

●委員 先ほどの石川委員の質問の市民農園の方は？

●札幌市 市民農園の話なんですけれども、我々、利用状況調査というのを定期的に行っております。それで今年度、全体の利用率が約8割程度となっております。これは、ずうっと割と一定しているという状況です。8割といっても、やはり場所だとかにもよるとは思うんですけど、人気のあるところはすぐに枠が埋まってしまう。逆に立地が悪いようなところは、まだ結構余裕があるというようなことですので、そういう人気あるところは「例

年の利用者さん等でひょっとしたら埋まってしまっているかもしれない」というふうに思います。市民農園の利活用というの、「遊休農地の解消」という意味では有効な手段というふうに思っていますので、次期ビジョンにおいてこれも併せて考えていきたい。

●委員 基本的には農家さんの土地ということですか？

●札幌市 はい、そうです。

●委員 「もう使わないから、ここを市民農園にします」という感じなんですか？ 市民農園の目標が25か所ということは、...

●札幌市 全てではなくて、例えば1ha持っていて「全部できないから半分市民農園にして、半分は自分でやる」という方もこれまでは多かったんですけど、今まで開設していた方も高齢になって、跡継ぎの方も「そこまで手をかけることはできない」ということで言われたのが、今回の認定の報告で減った2か所になります。基本、毎年利用されている方が優先で、その方が使わなければ、そこは空くという。それは、市民農園制度が始まった当初から、ずうっとそういう受付で来ているのですが、すぐ変えるのはちょっと難しいとは思いますが。やはり、使いたい便利な場所というのはとても人気があって、でも、いつも入れないなという状況は確かに続いているかと思うんです。ただ、それが直接我々の方に「使えないんだけど」というふうに連絡が来ることは正直あまり無かったものですから、そのところを変えるという考えは無かったのですが。それであれば、なるべく利便性の良い場所で「ここだったら利用者が来るから」ということで、我々の方から農地の所有者の方にお声掛けして、市民農園を増やしていくという方向に動いていかないと、そのままジリ貧になってしまうなというふうに考えております。

●委員 今、分業するノウハウみたいなものが出来ていて、「春起こしまでは農家さんがやって、あとは作って販売までは利用者がやる」みたいな形態もあって、色んなやり方はありそうですね。

●札幌市 そうですね。今の市民農園は「全て農家さんが自分で起こして管理をして」という形態なんですけども、本州のあたりだと業者さんの方で管理してお金を取っているやり方をしているのもあって、札幌市もそういうやり方もできる制度自体はあるんですよ。ただ、今までそういう方式でやりたいという人がいなかったんですけども、ご相談いただいてる中でそういうようなことをやりたいという話は少しずつ出ているので、これからそういう新たな可能性はあるのかなと。

●委員 基幹的な職業として、畑起こしのバイトみたいなのがあっても良いだろうし、そ

ういうのを札幌市が集めてくれて仕事を提供するのも良いし、そこから農業者が増える可能性もあると思うんですね。

●委員 これからのビジョンの策定に向けて、最近の札幌市農業で最も大きく変わったのはＪＡが石狩と合併したことだと思います。去年のこの場でもお伺いしたのですが、やはりＪＡとの情報交換・共有をどのように進めているのかお伺いしたいです。

ＪＡ青年部・女性部もそうだと思うんですけど、これから、どういう方向でＪＡが考えているのか自治体とＪＡが共有できているのでしょうか？

これから様々な事業をやっていくにしても、札幌市だけで決められないところも出てきますよね。例えば、ＪＡは自治体の範囲を超えて広域合併しました。そうすると、石狩市との調整も必要になってきます。大変だと思いますが、ＪＡが合併してくれたことも生かしながら、「都市農業」プラス「都市近郊農業」という枠組みで、これから札幌市農業の展望が開けたら面白いと思います。

札幌市内ではないですが、ＪＡの直売所「とれのさと」は期間営業から通年営業に転換して、全道有数の直売所になっています。札幌市の人口規模を生かして、ＪＡいしかりからのノウハウを生かしたり、両市で調整しながらやるとか、色々とやれることはあるかなと思います。

是非、ＪＡさんと札幌市が定期的にお話をされて、そこに石狩市さんも含めて何か考えていくような仕組み作りが、今度の新しいビジョンのときまでには必要なのかなと思っています。

●札幌市 そうですね。我々としてもＪＡが統合したというのは、次のビジョンを検討する上で大きな動きだというふうに捉えております。そういう動きもある中で、札幌市の農政としてはどういう振る舞いをしていけば良いのかというのも、もう少し広範囲で意識して考えた方が良いのではないかと考えていくつもりでおります。

●委員 よろしくをお願いします。

●委員 合併に関しては色々な取り組み方があるんですけども、今現在、次期の中期３ヶ年経営計画、また、それと同時に農業振興計画にも取り組んでいる状況の中で、やはり石狩市と札幌市では経営形態が違い、石狩市は「土地利用型の大規模経営」の方が多いですし、札幌市の場合は「施設系」が多く、経営形態が全然違う中で、どういう形で農業振興に取り組むか我々も非常に頭を悩ませている状況。そういう意味では、色んな意味で札幌市の方からでも色々と助言含め情報共有することが大事なので。これからもそういう場をぜひ設けていただいて、色んな方向性を見出していきたいと思っていますので、よろしくお願いします。

●札幌市 ありがとうございます。伺いたいと思います。

●札幌市 はい、それではこの後の報告事項等もありますので、一旦ここでこの議題については終わらせていただきたいと思います。この後、10 分間程度の休憩を挟みまして、その後、情報提供等をさせていただきたいと思います。15 時 15 分まで休憩とさせていただきます。よろしくお願いします。

(休憩)

●札幌市 続きまして、議事の 3 情報提供に移ります。まず、お手元にある資料で右上に資料 5 と書いた A 4 縦ですね、「次期ビジョン策定に向けた調査結果について」をご覧ください。一つ目は、市街化区域における農地の現地調査結果になります。先ほどのスケジュールの中でもお話ししましたとおり、今後は市街化区域の農地というのも農業振興の対象とすることから、昨年 9 月から 10 月にかけて調査いたしました。二つ目、対象としましては市街化区域の中にある 0.1ha 以上のまとまった農地を団地と位置付けまして、(4) 番の調査内容としまして、作物の作付状況を目視しております。これらの調査結果については今後、市民農園の候補地だとか様々な活用の可能性について検討していくために行っているものです。調査結果 5 番といたしましては、市内 10 区・計 556 団地ございました。そのうち作物が作付けされていたのが 426 団地で、そのうち東区が最も多くて 99 団地、また、10 区全体で最も作付けされていたのは野菜で、313 団地というふうになっております。各区の状況については裏面で、2 ページの表 1 のとおりとなっております。その次に②番、市街化区域の農地面積についてですが、合計は約 288ha ございました。そのうち豊平区が約 63ha と最も多く、作付けの状況を踏まえ北区の約 44ha が最も多い結果となっております。ですので、市街化区域にも農地は結構あるんだなという結果が出ております。続きまして、3 ページ目をご覧ください。農業者へのアンケート調査になります。対象といたしましては、札幌市の市街化調整区域も含めた市内全ての農地の所有者及び耕作者に対して行ったアンケートとなっております。アンケート自体は 11 月に実施しましたが、配布総数は 2,060 通で、農業者が抱える課題や農地の状況、施策に関する事項について伺いました。5 番の配布数と回収率についてですが、住所の変更等により 120 通戻ってきましたが、回収率は 55% と高い結果となっております。続きまして 2 枚目。幾つか調査を行った中の二項目を抜粋しております。そのうちの一つ目、農業を行う中で困っている事柄の結果を掲載しております。全体の回答数は 438 件で、最も多かったのが健康・体力・年齢の課題で 266 件、次が鳥獣被害で 239 件となっており、高齢化の進行や近年の鹿等による農作物被害の多さが伺えます。次に裏面に行きまして、「市民や来訪者が札幌農産物を購入・消費しやすくするために必要なことは何だと思いませんか」との質問についての結果ですが、全体の回答数は 925 件で、最も多かったのは「品質の良い農産物を生産する」が 345 件、次が「農産物パッケージに「札幌産」と表示する」が 300 件というふうになっておりまして、

品質が良く札幌産と一目で分かるような販売が求められている状況でした。その他にも聞取項目がございますが、集計・解析中となっておりますので、全体の結果については次年度の検討委員会の中でお知らせいたします。あと、ホームページにも掲載する予定となっております。次期ビジョン策定に向けた調査状況については以上となります。

報告事項について、一気に説明を行いたいと思います。続きまして、札幌市農政部の機構改革を来年度からスタートということで予定しておりまして、情報提供させていただきます。このA4横カラーの「農業支援センターの機能変換」をご覧ください。軽部組合長には以前ご説明いたしましたものになりますが、改めて皆さんに説明いたします。機構改革ということで、今この農業支援センター1階に職員が常駐しておりますが、ここの職員が今年の3月に、我々農政部農政課がいる本庁に全員引っ越します。なので、いま農政部は本庁とここの支援センターの2ヶ所体制となっていたものを全部一か所にまとめましょうという動きをしております。それについての背景だとか具体的な予定等についてご説明します。このきっかけとしては今、流れから新たな農業支援というものが様々な分野に求められているところです。そういった変化に応じた拠点として、札幌市が果たしていくということが求められているというのがきっかけとなっております。その様々な流れという部分なんですけれど、この左側の国の動き、皆さんご存知な部分も多いかと思うんですけれど、例えば食料・農業・農村基本法の改正がありまして、食料の安全保障を明記したほか、環境と調和した農業だとか、スマート技術だとか、農福連携とか、そういった新たな取組みを加味した持続的な農業の発展を図ることが謳われております。その他、みどりの食料システム戦略では脱炭素・環境負荷低減に向けた取組み、あと都市農業振興基本法ですね。これはちょっと古くて平成27年ですけれども、都市農業ならではの役割を推進することが札幌市にも求められるところです。こういった流れから、我々としても今後の農業活性化のために、農業者にこれまでの農業支援はもちろん継続して行いうんですが、それに加えて先ほど出てきた、例えば環境負荷低減とか、スマート農業とか、都市部ならではの農業施策、そういった部分での新たな視点での農業支援手法の検討・推進というのが必要になってくるだろうというふうに我々としては捉えました。一方で、今の農業支援センターについては、この施設がもう30年経過しておりまして、老朽化が進んでいます。その他、我々の体制としまして、かつては農業職という専門職がありまして、農家さんに対する農業技術指導等を行っていたんですが、段々、我々の体制も変わってきてまして、農業職というのが今はいないということで、なかなか技術支援という観点での支援が難しくなっております。それと、本庁と支援センターが分離していることで非効率化という課題も出てきております。それと併せて、一方で、ここを含むさくらんど自体について令和10年以降にリニューアル、官民連携というのを視野に入れているんですけれど、そういった部分でここも含めたりリニューアルを検討しております。それに合わせて、ここの支援センターも我々が引き上げた後は民間活力を生かした新たな農業者支援に資する役割を果たす場所へと機能転換を図ってまいりたいということで、今回の機構再編になりました。その下はスケジュールになります。R6で職員引き上げということで、R7から本庁での

新体制となりまして、併せて「さとらんど」については、官民連携を検討した上で、新たな農業者支援の拠点となるような場所として再整備を行っていきたいと考えております。以上が農業支援センター及び機構再編の情報提供になります。

続きまして、ＪＡさっぽろ青年部さんと女性部さんの取組みについて情報提供をお願いいたします。

●委員 女性部長の代わりに女性部の紹介もさせてもらうんですが、資料が多いので、少し長くなるかもしれないですけど。

先にチラシから簡単に説明しますと、ＪＡで取組んでいる事業の案内なんですけれど、青年部の「奥芝商店」と書いてあるものは、スープカレーのチェーン店で札幌で凄い人気あるんですけど、そこと一緒やらせてもらったものです。

次にこの「玉ねぎフェア」というのは、札幌東急さんの地下の食品コーナーの各店舗で、各店舗で札幌黄のオリジナルメニューを出してもらって、これも好評でした。

それと、もう一つの写真展のものなんですけれど、これも去年も地下歩行空間でやらせてもらって、いま青年部で撮っている写真っていうのは全部「曽我さん」という札幌で活躍されてる写真家さんの写真なんですけれど、その方の写真展ということで、これらの事業を全部ＪＡ企画でやらせていただいて、市の農政の方にも協力してもらいながら実現しました。やはり、写真展も本当に良い写真が多いので、足を止めて見て、話しかけてくれたり「いつもありがとうございます」と言ってくれる人もいるし、やはり、そういう市民と農家が触れ合う期間も大事ななと思いました。

先に女性部の資料を説明させていただきます。めくっていただいて、女性部本部道外視察研修ですね。６年ぶりに実施して、信州、長野県ですかね。カゴメ北海道の方と一緒にメインとなるカゴメ野菜生活ファーム富士見等を回ったようなんですけど、カゴメさんとも女性部とそういう付き合いで活動させていただいて、色んなイベントと一緒にやったりだとか、遊びに行くより本当に研修に行って、みんな「楽しんだし勉強になった」と言っています。

次めくっていただいて、ＪＡようてい女性部との交流会。これなんですけれど、女性部の活動が「家の光」という機関紙に紹介されて、それを見たＪＡようてい女性部の人達から「ＪＡ札幌の女性部は色んなことやっていて、どうやったらそれが実現できるんですか？」というアプローチがあり、交流会の中で「こういうことやっているんだよ」というのをＪＡさっぽろの女性部が教えるという感じ。そこから付き合いが始まった会だったようで、好評だったそうです。だから今は、全道でも「ＪＡさっぽろの女性部って凄いんだな」というのが広まっていて、モデルケースになっているみたいですね。

次のページの日帰り研修会ですけど、女性部みんなバスに乗って、札幌各地のほ場等を見学してもらって、仲間がどういうものを作っているのかというような視察も行っています。

次のページ、「たまねぎフェア・女性部オリジナル豚汁販売」。これは青年部と一緒に、

さとらんの玉ねぎフェアに出させてもらって、毎年やっているんですけど、札幌の農畜産物を多数使った豚汁を作っていただいて、この日は300杯売らせてもらって、本当に美味しい豚汁を作っています。札幌の野菜で作ったので凄く美味しいし、なかなかこの札幌の野菜で作った商品、料理を食べられる場所が少ないと思うんですよね。すごく喜ばれています。この裏では、青年部が玉ねぎの販売をさせてもらいました。

あとは、女性の集いというのがあるんですけど、これは交流、みんなで楽しんでご飯を食べてお酒飲んでという会なんですけれど、去年は元ファイターズの鶴岡さんに来ていただいて、グランドホテルでやらせていただきました。写真が載っているんですけど、女性部が作ったお洋服だとか鞆だとかを販売して、仲間同士で買ったりということもさせてもらっています。グランドホテルさんで出していただいた料理も札幌で作ったものばかり、僕も食べたんですけど、とても美味しかったです。

女性部も凄く活発で、見ていただいたら分かるんですけど、高齢の方が多い組織ではあるんですよ。ですけど、全道で先駆けているぐらい活動している。農業としては札幌はそこまで規模が大きく見えないかもしれないんですけど、やっている組合員は凄く元気があるんですよ。やはりみんな、札幌のPRをしたくて頑張っているところがあります。

●委員 JAさっぽろの女性部は、正組合員だけではなくて、准組合員の人も加入できますよね。非農家の人も。だから、女性部の中で生産者と消費者の交流で色んなことができるという。そういう中で生まれてくるものもあると思うので、本当に凄い組織だと思います。

●札幌市 それは珍しい。

●委員 珍しいと思います。農外に開かれている強みがあります。

●委員 だから、青年部の集まりより、女性部の集まりの方が凄い人数になる。

最後に、青年部の活動の説明をさせていただきます。撮影に拘って、これも曾我さんの写真なんですけれど、めくっていただいて、これは最初はハウレンソウのポースターですね。清田の桑島さんの写真で、着ているTシャツが今、JAさっぽろ青年部でみんなが着ているもので、「札幌プライド」というマークを付けてやっています。

次ですね、厚生病院のふれあいマルシェとエスコンフィールド北海道マルシェ。厚生病院とのふれあいマルシェは、札幌単独ではなくて、石狩市の一部区域がJAさっぽろの組合員ということもあり、石狩地区の活動に札幌も参加させてもらったんですけど、「病院さんと何かできないか」ということで、病院の中でマルシェをさせてもらって、今回は職員さん向けで看護師さんだとかお医者さんだとか、みんな買いに来てくれて盛り上がりまし、来年は患者さんだとかお見舞いに来るご家族にも向けてやりたいなという話をしています。

エスコンフィールドの方は、これも2年目なんですけど「JAバンク北海道 presents」

というスペシャルナイターがあって、そこに全道8ヶ所ぐらいのJAさんが参加して、そこにも札幌が参加させてもらっています。野球の試合がある日なので人は多いんですけど、やはり野菜が目的で買いに来ている人は少ないので、ちょっと厳しいんですけどPRにはなっています。

次のページですけど、3番目のオータムフェスト。これも2年目なんですけれども、9月26日から30日までの最後の5日間、10丁目のニトリさんのブースで一区画貸してもらって、写真の様な感じで野菜を売らせてもらったんですけど、意外と買ってくれる人が多いし、近所の方だとか仕事帰りの方等も買ってくれて、10丁目は肉のブースで野菜が目立つのか、結構みんな立ち寄ってくれるし、話もできるし、凄く良いイベントです。今回からJAの職員さんも一緒に手伝ってくれて、青年部だけではなくてJAと一緒にこういうマルシェをやらせてもらっています。

その次が先ほどのチラシにもありました、奥芝商店とのスープカレー販売。これも2年目で、僕らがコラボ商品をやる上で大事にしているのが、お店のスタッフさんにほ場に見学に来てもらって収穫体験等もしてもらって、「どういう所でどういうものを作っているのか」というのを見てもらってから美味しい料理にしてみようというのを大事にしているところで、「どうやってこの野菜を美味しく食べられるか」ということを考えてくれて、このメニューにもあるんですけど、ほとんどの野菜が札幌産。一部江別のものも入っています。この真ん中の赤く薄いのがビーツなんですけれど、これもとても美味しいし、この玉ねぎも2種類入っていて、札幌黄とレッドオニオンも入っています。お店も観光客が多く来る所なので、PRになっているかなと思います。

その次のページも奥芝さんの話ですね。これも本当に色んなメディアが取り上げてくださって、農業新聞も全国版にまで載りましたし、北海道新聞にも載せてもらったり、今までの各種活動を色んなテレビ局だったりラジオに取り上げてもらって、「いま札幌の野菜に魅力がある」ということをたくさん取り上げてもらっていて、今後は楽しみです。

最後のページは、青年部もグランドホテルさんで講演会をさせてもらって、この日は奥芝商店の奥芝さんというオーナーの方に講師をしていただいたんですけど、この方は全国で色々ボランティアなどもやられている方で、話がとても面白くて、みんな「本当に良かったね」と。農業を応援してくれる人はたくさんいるんだけど、農業・農業者と関わる場所はとても少なく、やはりこういう機会がたくさん増えれば、農家も凄くやる気が出るんじゃないかと感じました。

来年度も同じような取組みもやりますし、新しいこともどんどんやっていきたいと思っていまして、さっきも話がありましたけれど、これも青年部だけでやるより、やはり市も一緒になってやっていかなきゃ、僕は将来がないものだと思いますので。これはやはり市だけではなくて、農家・農業を応援してくれる市民のみんなも一緒になって盛り上げていかなきゃいけないかなと思っています。以上です。ありがとうございます。

●札幌市 ありがとうございます。それでは、情報提供は以上になりますので、これらに

ついて質疑・意見交換をお願いいたします。その他の話題でも構いませんので。

●委員 農業支援センターのお話を聞いて、本所に統合するのは仕方ないと思いました。跡地の活用にあたり別の運営者を探すのは大変だと思いますが、指定管理者を入れるということですか？

●札幌市 やり方をどうしようというのは、まだ分らないです。

●委員 このセンターはいまも土壌分析など重要な役割を担っているのだと思いますが…。

●札幌市 それは継続してやっていきます。

●委員 今後はそれもやってくれる業者さんをお願いするということでしょうか？ それとも札幌市がやっていく？

●札幌市 今までも委託という形ですけれども、実際出てきた分析結果等は札幌市が農家さんに説明していて、そういう形は変わらないでやっていきます。

●委員 ありがとうございます。

●札幌市 そうですね、その他にも先程サトホロの話をしましたけれど、茎頂栽培だとか、そういった伝統野菜の栽培等は継続していきます。

●委員 今後、専門農協のサツラクさんと、総合農協のJAさっぽろさんがここを拠点に揃って色々やってくれる場になったら、一番良いですね。いまJAの青年部さんや女性部さんのお話を聞いて、このような活発な取り組みの拠点として、ここが利用できたらいいなあとと思いました。農業者も集まりやすく、札幌黄だけではなく、札幌市の伝統野菜の共同育苗・試験栽培などもできますよね。夢が広がるなあとと思いました。

●札幌市 我々も、そういうふうに思っています。今回のさとらんど再整備が、ちょうど良いきっかけかなと。その流れで支援センターの活用もありますし、さとらんどの中にあるサツラクさんとも色々と連携していく。再整備をキッカケに、今の色んな流れに乗ってやっていければなというふうに思っております。

●委員 凄いですね。これだけの大都市で専門農協もあり、総合農協と連携することができるのは札幌市だからこそできることで、特色としても生かせそうですね。

●札幌市　そうですね。官民連携というのも視野に入れていまして、いま民間業者さんに幅広く意見を求めて、色んなご意見を頂いたりして、「できる」「できない」は勿論あるんですけど、結構、関心を持っていただけているなと感じます。

●委員　農業者からすると、「環境負荷低減」みたいなものは今の時代に則ったものだと思うんですけど、有機農業とか、「こういうのは具体的にこういう取組みをしよう」みたいな話は出たりしていますか？

●札幌市　具体的な方策としては、まだ無いんですけども、確実に国の方では、食料・農業・農村基本法の改正をきっかけに色んな補助事業だとか補助メニューを作り出しているので、合致するようなものがあれば活用する可能性も広がると思いますし。

●委員　補助を貰って凄く楽になる新技術等だったら歓迎するんですけど、ギリギリの経営をしている中で「これを守ってくれ」みたいな方策になると、農業者は本当にやりづらくなるので心配しているんですよ。

●札幌市　有機農業にしても、結局「それで儲かるのかどうか」というところなので、その辺は「有機農業が今トレンドだから」みたいなことは勿論ありませんので。「最終的な販路も含めて、有機農産物をどう広げていくか」というのは、トータルで我々も考えていかなければいけない。支援センターの方では、これまでも有機ほ場で試験的なことは続けてきたんですけど、それが結果、フィードバックされてないような状況になってきております。「実際に有機農業をやれば、これだけ儲かる」といものを示すような、そこをしっかりと詰めていかなければというふうに思います。

●委員　お願いします。

●委員　すみません。その他になるかと思うんですけども、この計画に関してなんですが、露地栽培に関する施策しか立てられていないように感じるんですけども。いま、地球環境がとても乱れていて、農作物が取れなくなっていますから、今後の農業、食料の安全・安定した供給ということを考えたときには、その対策として植物工場の建設ですとか、そういう農業形態に従事できる人を育成することも必要なのではないかなというふうに感じています。東区ですと「アド・ワンファームさん」ですとか「Jファームさん」はもう既にされていますけれども、2023年の11月に東京の「PLANTS LABORATORYさん」と「北電さん」がそういう小型の植物工場事業を始めていて、いま倶知安町の方では既にそれを導入して試験的なのかどうか、既に稼働しているようです。そうした小型の植物工場というのがもう既にシステムとしては出来上がっているの、今後、長期ビジョンということで農業を考えていくのでしたら、そうしたことも入れていかないと。これから色々なことが

起きたときにどうするのかなというふうに思うんですが、そうした植物工場に関しての施策というのは今現在あるんでしょうか？

●札幌市 小型の植物工場に関しては、「ございません」というのが正直なところなんですけれども、農業支援センターにガラスハウスですとかそういったものがありまして、色々民間企業さんからご意見をいただいている中で、そこを使って例えばそういう技術なり設備なり施設っていうのを農家さんに還元して使ってもらわなきゃいけないというのがありますので。札幌で、そういう小型の植物工場的な技術を導入して、こういう生産ができると、次はモデル的なもの、実験的なものを作って見せていかないといけないというのは最初にあるかと思うんですが、そういったことに踏み込むかどうかは、これからのことかなと。

●委員 いきなり工場を作ることよりも、例えば世界の人を集めたセミナーを開くとか、札幌ならではの事ができると僕は思うんですよね。そこから始まると思うんですよ。いきなり工場を作れる企業はあまり無いと思うので。そういう勉強会だとかをやっていけば良いのではないかなと。そういうのは、札幌じゃないとできないのではないかと思います。

●札幌市 確かに。まさに札幌ならではのということかもしれないですね。

●委員 それも観光にも繋がるし、学生も集まるし、良いのではないかと。

●委員 植物工場が「完成された技術」といっても、対象作物は主に野菜です。有事の際には穀物などのカロリー生産が大事なので、あまり非常事態への対処にはならないかもしれません。私たちの生命を維持するカロリーを確保するためには、米や小麦など穀類の生産が重要です。世界的にも今の植物工場の技術では米や小麦は大量に作れないのが実状です。そのためには太陽光と土壌が絶対的に必要です。だからこそ、非常事態のことを念頭に考えれば、「農地をどう保全していくのか」というのが必要です。農地がなければ、人間は死滅します。

その上で、新しい技術の導入や、長期保冷施設での雪の活用、ビルの屋上を活用して安定的に食料生産するというのは良いと思いますが、まずは農地を何とか維持して、非常時にはカロリーを確保できるものを作ってもらおうという食料安全保障の考え方も大事だと思います。そのためにも生産者がいて、排水等の土地改良に投資した農地も必要になります。農地はもちろん生産者の私有財産ではありますが、同時に国・自治体が資金を投入している「公共財でもある」という側面もあります。今後、そういったことを考えて、農地を保全していく仕組みがあっても良いと思います。

●委員 農業者としても、肥料だって簡単に手に入るものでもないのに、将来、世界的なショックが起きたときに、「手に入らなくて今年は作れませんでした」ということも将来、絶対にあり得ることだと思うんですね。そういうときに、国が守ってくれないといけないことだと思うんですね。個人で肥料を買うのも限界がありますし、ほとんど主要な成分は日本では取れないものなんです。中国やアメリカから買わなきゃいけないものって、貿易の結果では関税で買えなくなることも十分ありえ得るので、そうなったとき、本当に日本人が食べるものが無くなってしまうと思うので、そういうのはやはり政治で守っていただきたいと思います。

●札幌市 ここ最近、急に色々とそういう動きが出てきて、高い関税をかけるだろうという動きも出てきて、皆さん、本当に安心していただけないというのが割と身近に迫っていると思うんですけど、実感ありますよね。

●委員 そういう意味でも今回のビジョンは、今までと潮目が変わった中での初めてのビジョンですね。消費者の不安にも応えながら、「どういうふうに農業生産を維持していくのか」という点を前面に打ち出しても良いのかなと思います。

●委員 いずれにしても、「札幌＝農業＝買おう」という市民の動きを作っていくと、結局、農家さんを守っても買う人がいなかったら草生えているだけというふうになってしまうので、やはりそこが一番大事なと思うんですね。

先ほど、一番初めに宮入先生が仰ったように、この支援センターをどうするかですね。私、随分前に新潟市がやっている食育・花育センターに行ったんです。そこは凄い施設で、子供達の料理教室もできる場所もあって本当に綺麗なんです。今日食べたものを入力したら野菜の摂取量と過不足が出てくるものがあったりして、そういうふうには子供達が自然と食に関して分かるものがあったりします。花育の施設と一緒に、そこに大きな直売所があって観光客が来るんです。5年くらい経っていると思うんですが、ちょっと中心部から離れているのですが、観光客も買い物に来ている。新潟の農産物の販売もあったり、隣にレストランもあって、そこそこ人も来ていました。

やはり、市民にももう少し農業を知ってもらおうというのが大事で、移住のきっかけにもなると思います。札幌で、「奥さんは他で働く」、「旦那さんは農業したい」とか。それだけでも農業人口が1人増えるかもしれないし、今、札幌への移住フェアっていうのを東京などでもやっているじゃないですか。札幌市も大変と聞いていますから。そういう面から見ても、農業も職業の一つとしても大事。「札幌市では、こういう農業ができますよ」とか、「こんなに産地が近いから、こういう野菜を作って結構売れていますよ」とか。紹介によっては農業をしたい移住者が来るかもしれないし。

あと、ツーリズムですね。道外から来る人達を色々な農家さんに連れて行ったりするんですけども、やはり道外から来る人達の「夏のトマト」といったらもう、全然反応が違

います。味が違うので、そういうところを観光面として農業で「アグリツーリズム」という部分を作っていくと良いと思います。農政部も経済観光局じゃないですか。観光という観点も一緒に考えていってはどうか。ツアーに参加して農業の状況も見たら、札幌で農業を仕事にして移住したい人も出てくるかもしれないし、「移住＝農家さんになるかもしれない」という面も少し大事にしたら良いなと思います。今ある農地が減るとか増えるといったことだけではなく、もう少し明るく「みんな、農業は楽しいよ」と引き込んでいく感じで、変わっていくと良いですね。

●札幌市 そうですね。本当にそう思います。「さとらんど」というツールが本当に我々の強みかなと思います。

●委員 確か、さとらんどは食育のために作ったんですよね？

●札幌市 そうですね。

●委員 市のホームページには「食育のワンダーランド」というキャッチフレーズが書いていますが、現状とキャッチフレーズが全然合っていないんですよ。私、それも以前から指摘しています。「キャッチフレーズから取って」と言いたくなる。ワンダーランドと全然違う。中途半端なので、そこを「ワンダーランドに近付けるのか、キャッチフレーズから取ってしまうか、どちらかにしてほしい」という感じです。アクセスが悪いから一般市民はなかなか来られないし、駐車場が「タダ」なので、来られる人は来るけれど、知らない人は全然来ないという感じになっているので、もう少し上手に、ここをリニューアルしてください。次のビジョンの一番大きな柱に入れたこともありますので。

●札幌市 課題ですね。食育は札幌市としても結構重視しています。我々としては「ワンダーランド」を取らないで、そこに近付けたいと思います。

●委員 私、さっきモエレ沼公園のガラスのピラミッドに寄って来たんです。雪の中、ノルディックスキーをやる一般市民が来ていたり、ほかにもソリ遊びをする外国人がいました。レンタルソリやウェアのことなどPRしているかどうか分からないですけど、そこそこ人がいました。「レストランは、やっていないんだ」とショックを受けて帰る人もいましたけれども、やはり何か情報発信していると、こうやって雪がひどく吹雪いていても来る所には人が来るというのを見て、「ここは勿体ないな」と思います。

●札幌市 そうですね。モエレは観光客にとっても有名なスポットになっていて、年中、人が結構いますが、さとらんどのすぐ隣ですからね。

●委員 観光客が東区まで来ているんだから勿体ない。Googleによると、モエレ沼からあと7分でこの場所まで来るんですよ。なので、モエレ沼からこちら側に呼び込むようなことを一つ考えるべきです。

●札幌市 このエリアは、丘珠空港も「これから滑走路を延伸して活性化を図る」という動きもありますし、その辺を上手く取り込んでいけるようなとか、そういう意味では観光という観点も必要だと考えています。最近、さとらんども観光客の方々が結構訪れるようになっています。だから、そういうところも生かしていく。

●委員 生かしてほしいと思います。

●委員 札幌市は、観光向けに動画を作ったりすることはあるんですか？

●札幌市 観光サイドでは作っていると思います。

●委員 観光はあるんじゃないですか？ 農業面は無いと思うけれど。

●札幌市 色々とPR動画を作ってやっていければ。

●委員 そういうところにも力を入れて、お金もかかるでしょうけれど人材も入れて良いものを作ってホームページにすれば、凄く魅力的なまちのイメージは作れると思うんですよ。

●札幌市 JAさんで作っているPR動画は凄いですよね。

●委員 見ていただきました？ 青年部や女性部の講習会では、まず最初に音楽付きの動画を流すんですよ。良い映像なので、本当にみんな引き込まれるし。

●委員 よろしいですか？ さっきのご報告の中で、JAの女性部のお話でグランドホテルさんでお料理を食べた話の部分ですけど、そういった形でやはり作る側が出口というか、使ってもらうところもとても大事ですよ。こういったグランドホテルでの取組みは、このときだけなんですよ。

●委員 そうですね。

●委員 定例化していくとか、そういったことはどうなのかと思いました。さとらんどのレストランだって札幌の野菜をもっと使えば。例えば、北広島の「くるるの杜」さんみた

いにバイキングのレストランだと、色んな地元の野菜を入れられると思うんですよね。そういう形で地元の野菜を食べられる所が増えていけば、作る側も元気になってくると思うので。やはり産官一緒になって、例えばこういったホテルさんに働きかけていくというのは、できないものなんですかね。

●委員 難しいんじゃないですか？ 1日、2日の単発なら良いけれど。やはり量が足りない。女性部では三升漬けなどの商品開発はしてくれていますよね？

●委員 グランドホテルさんも瓶詰めしてくれたりだとか、商品を出してもらっているんですけど。青年部で自分の野菜を持ち寄ってビュッフェみたいなのをするんですけど、仲間しか食べる機会が無い。それを観光でやったら本当に感動するだろうし。

●委員 だから、年に1回でも良いと思うんですよね。イベント的にやっても、やはり宣伝になると思うんですよ。なにせ、「今買おうと思っても食べようと思っても身近に手に入らない」ということが、消費者にとっても不利益というか、札幌にしながら札幌のものを買えない状況ですよね。

●委員 こう話している中でも、やはり食べたことがない人も勿論いる訳じゃないですか。札幌で作っているのに、その機会がやはり少ないんですよね。そういう機会を僕らも増やしていかなきゃいけないなと思っています。

●委員 うちの大学もこのすぐそばにありますけれど、職員の中で札幌黄のことを一生懸命宣伝しているんですけど、「ところで、札幌黄ってどこ行ったら買えるの？ スーパーに売っていないわ」と大学の職員でも言っていて、「いや、いっぱい東区に売っているよ」と言うけれど、東区にいても、やはり知らない人は知らないという状況です。

●委員 農家としては、「札幌黄を守る」というのがあまり力強なくて、なかなか難しいんですけど、ちゃんとしたブランドとして確立するなら、もっともっと一致団結しなきゃいけないんだけど。

●札幌市 そうですよね。札幌黄自体の認知度は高いですよね？

●委員 高いです。

●委員 東京のバイヤーさんと2ヶ所繋げましたけれど、札幌黄はすぐ売れちゃうという状況です。

●委員 隣同士の農家で作っているけれど、そっちのことはあまり知らないです。どれが札幌黄なのかは。地域で一つになって動いていないような気がしますね。各農家さんのプライドがあるので、「これはうちの種だ」というのがあるんですよ。同じ品種だけれど、100年の歴史があるから、ちょっと違うんですよね。

●委員 在来種は、毎年毎年、自家採種している農家さんもいるので、そういうこともあるでしょうね。それぞれの持っている種が違ってきますね。

●委員 ただ、これを守っていかないと、違う都市で作ったら「何々黄」になったりしいてみたいだから。

●札幌市 そうなんですか？ 実際、出てきているんですか．．．。

●札幌市 J Aさんで長沼の方で、札幌黄を採種してやっていましたけれど、それをまた、あちこちの農家さんが購入して作られていますけれども、またそれとは別に自家採種も勿論されていると。まだ、その辺は難しいところがあるんです。

●札幌市 その他、意見等ございますでしょうか？

●委員 最初にアンケート結果をご紹介顶きましたが、これは本当に凄い成果だと思いました。まず回収率が55%で、しかも市街化区域に限定してアンケートを取ったのは、神奈川県だとか、首都圏でも近年類をみない調査だと思われます。これはもしかして大都市圏で初めてのアンケート調査じゃないですか？

●札幌市 どうなんでしょうね。分からないですけど、アンケートについては担当の方から催促の手紙を送ったりして、ここまで回収率を高めていった状況です。

●委員 素晴らしいと思います。市街化区域内の農地の総面積は280ha、大体300haというと、令和2年農林業センサスの経営耕地面積1,500haの大体5分の1が市街化区域内の農地だというのも見えてくる。

●委員 意外と多い。

●委員 はい、以外と多いですし、この都市の農地を維持するというのは、とても大事だと思います。これから災害だとか色んなことを考えても本当に大切な存在です。だからこそ、重要課題として、「これ以上市街化区域内の農地は減らさない」というような取り組みが必要だと思います。これだけ回答率が高いというのも意識が高い生産者の方がいらっ

しゃる現れだと思います。回答には経営の厳しさも出てきています。なんとか「農地を農地として守りたい」という意識ですね。今日は職員の皆さまに色々と要望ばかりを言いましたが、こういうアンケートをしていただいたのは本当に素晴らしいと思いました。

●札幌市 「次期ビジョンの中で、どう生かしていけるか」といような重要なアンケートなんです。

●委員 素人と先生方とでは多分、見方が違うと思うんですよ。アンケートで、統計的なそういうところで色んな議論をしてもらえれば。本当に必要なものが何なのかは、農家だけでは分からないので。

●委員 そうですね。「作付あり」の面積がうち 200ha ですから、残り 80 数 ha は転用を待っているか、これから農地ではなくなってしまう可能性があるということですよね。それも考えると、どういう支援が必要なのかがよく見えるようにするために、もっと分析を深めるべきアンケートだと思います。

●札幌市 我々も、「市街地の農地がこんなにあったんだ」ということと、「これから、どうしていこうか」ということは思っていて．．．。

●委員 団地数もこれ以上の集積は難しいかもしれないですが、そのような状況を基本に、どうやって分散した農地を守っていくのかということを検討する際に、役立つ調査結果でもあると思います。

●札幌市 他の都市だと生産緑地の制度もあって。ただ、そうすると税金の問題だとか市の収入に関わってきたりするので、なかなかそこに踏み切るっていうのも難しい部分もあったりして。ただ、我々もまだそういう部分をよく理解していないんですけど、そういう情報も集めながら検討していきたいと思います。

●委員 市街化調整区域も含めて都市農業の調査や検討を行う場合もあると思いますが、まずは市街化区域に限った調査は、最近では珍しいと思います。しかも回収率が 5 割を超えているというのもすごいですね。

●札幌市 5 割については、全体ですね。調整区域も含めてではあるんですけど、ただ、この中にも市街化区域の方も入っている。

●委員 そうですか。市街化調整区域も含めて 2,060 人ですか。それでも、こういうアンケート結果になって出てくるのですか。

●札幌市　そうですね。市街化区域のクロス集計もできる？

●札幌市（事務局）　そうですね。後ほど、取りまとめましたらご報告させていただきます。

●委員　こういう資料と、今回の検討会資料の「多様な担い手」の部分等の実数字を加えて頂ければ、これから様々な意見交換・意見聴取の際の基礎資料になりますね。

●札幌市　基礎資料になります。あとは、これからお話をさせていただくんですけれども、検討委員会の中でもこういった部分を代表委員の方にご議論いただきたいと思います。

●委員　アンケート結果は、まだオープンにしないデータですか？

●札幌市（事務局）　来月には、ホームページに掲載しようと思っております。

●委員　農家をやってみたい人がいたら、ホームページを見て「あれ？近いじゃん」と言う人も出てくるかもしれませんよ。

●札幌市　そうしたらですね、検討委員会のお話に移らせていただきたいと思います。記事の最後になるんですけども、次第の2番(4)「その他」の部分になります。討委員会の設置に係る手続き等についてでございます。先ほど少しお話しましたが、検討委員会のメンバーというのは、本日ご出席の皆様を基本にというふうに考えております。検討委員会の設置にあたっては、次年度、改めて書類等においてやり取りを含めてご協力いただきたいというふうに考えておりますので、その際はどうぞ宜しくお願いいたします。また、現ビジョンの最終年の進捗状況に係る懇話会についてですが、次期ビジョンの検討会において、3回お集まりいただくことから、別途開催するべきかどうかの扱いについては、こちらの方で検討させていただきたいと考えております。

検討委員会の部分について、何かご質問等ございますでしょうか？　また後ほど、「そうだ、これは」というのがあれば都度、ご連絡いただければと思います。

それでは、今日の議事については以上となります。

特に「この場を借りて」というご意見等は、よろしいでしょうか？

それでは、これをもちまして令和6年度第2次さっぽろ都市農業ビジョン推進懇話会を終了いたします。

本日は、天候も悪い中お集まりいただきまして、誠にありがとうございました。どうぞお気をつけてお帰りください。ありがとうございました。

以　上